

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 5 月 8 日現在

機関番号：57601

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24520059

研究課題名(和文)『ヴィヤヴァハーラ経』を中心とするジャイナ教出家者戒律の総合的研究

研究課題名(英文)Comprehensive Study of Vinaya in Jainism with Vyavaharasutra

研究代表者

藤永 伸 (FUJINAGA, Shin)

都城工業高等専門学校・一般科目文科・教授

研究者番号：70209071

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：ジャイナ教聖典「ヴィヤヴァハーラ経」を複数の註釈を参照にしながら、読解した。これによりジャイナ教僧団においてどのような戒律が規定され、それが実際に僧侶が過失を犯した際に、どのように適用されるか、またその時代的変遷の概略を註釈の記述の違いから明らかにすることが出来た。さらに使用されている重要な用語の訳語の一覧も作製した。また未刊行の註釈文献の写本を入手し、その一部を読解した。これは世界的にも先駆的な研究であり、今後も展開していきたい。

研究成果の概要(英文)：We have studied the Vyavaharasutra, a canon on the behavior of Jaina mendicants, with the help of various commentaries on it, so that we found how they regulated their life and how they applied the rules of conducts when some mendicants committed them. We have also tried to study a commentary which has not been published so far.

研究分野：ジャイナ教

キーワード：ジャイナ教 ヴィナヤ 註釈文献

## 1. 研究開始当初の背景

本研究の主たる対象である『ヴィヤヴァハーラ経』本文(以下、『経』『経本文』と略す)および二種類の註釈の刊本は1928年に出版されて以降は刊行されなかったが、2010年に信頼できる校訂本(以下、「ムニチャンドラ本」と呼ぶ)が現れた。

また近年、プラークリットとサンスクリット混淆の散文註釈を研究する必要性が認識され、個別研究の発表も行われてきたが『ヴィヤヴァハーラ経』に関しては、皆無であった。

一方、我が国におけるジャイナ教研究は、研究者の数が徐々にではあるが増加し、30歳代を中心に活発な活動が行われており、イギリスやフランスなどの海外研究者との交流・情報交換も盛んになってきた。

## 2. 研究の目的

本研究が対象とする項目は(1)戒律文献と(2)現在の制度とである。以下にはその内容と範囲を述べる。

### (1) 戒律文献

本研究で扱おうとする戒律文献は基本的に「裁断経」(Chedasūtra)と呼ばれる白衣派に属する3つの聖典とそれに対する一連の註釈文献である。特に「ヴィヤヴァハーラ経」については経本文と全ての註釈を対象として研究を行う。その中でもチュールニ(cūṛṇi)と呼ばれる註釈は集中的に研究する。また「裁断経」一般に関しては資料等が比較的豊かな先行研究を利用しつつ、各経本文相互間、及びパーシャ(bhāṣya)と呼ばれる註釈間の相互関係も研究の対象とする。

### (2) 現在の出家者の戒律

周知のごとく、現在のジャイナ教は白衣派と空衣派とに分かれるが、本研究の対象としては前者に絞り、その内でも多数派の尊像崇拜派および活発な活動を行っているテーラパンティ派における戒律を扱う。

本研究の範囲は概略以下の二つに限定す

る。

### 戒律の構造

上記二対象において出家者のどのような行動が戒律と規定され、どのような行動が違反行為とされ、更に違反に対してどのような処罰が行われるかを解明する。

### 歴史的考察

文献と現状の研究から得られた結果を基にしてジャイナ教の出家者に関する戒律がどのように変化し、どのように保持されているかを明らかにする。

## 3. 研究の方法

### (1) 電子本文の作製

「経本文」および二種註釈における種々の検索および確認などの便に供するために、パソコンに入力し電子化する。

### (2) 文献の読解翻訳

上記作業と平行して、原文の読解を行う。特にサンスクリットによる註(以下「マラヤギリ注」と記す)は先行する翻訳が存在しないので、特に意を注いで行う。これらの作業に基づいて「経本文」や註釈の翻訳、語句索引製作、訳語集などの作成を行う。

### (3) チュールニ本文の校訂編集

『経』に対する註釈としてチュールニが書かれているが、刊本は現時点では存在せず、写本のままである。本研究では、インド北部の写本庫に保存されている、複数の写本を入手し比較することで、本文を決定する。

### (4) 現在の出家者の戒律との比較

上記の文献研究の成果と、現在存在するジャイナ教出家者の戒律とを比較する。特に食事に関する戒律と、異性間の接触に関するものを中心に検討し、実際に適用する際の変化、および歴史的変遷の有無を検討する。

#### 4. 研究成果

##### (1) 研究の主な成果

本研究は当初、藤永伸（研究代表者）、八木綾子（24年度研究分担者、25・26年度連携研究者）および河崎豊（連携研究者）でスタートし、その後、堀田和義（25年度研究分担者、24・26年度連携研究者）が25年度から加わり、更に藤本優美（25・26年度連携研究者）も参加した。また26年度には名和隆乾（大阪大学大学院）や上田真啓（京都大学大学院）も参加した。以上の参加者を中心に大略、以下の様な成果を挙げることができた。

##### 「経本文」および註釈の読解など

ほぼ、毎月一回の割合で会合を持ち、「ムニチャンドラ本」を底本として「経本文」および二註釈の読解を行った。プラークリット注の冒頭180余偈およびこれに対する「マラヤギリ注」は「ピーティカー」と呼ばれ『経』そのものに対する説明ではない。それ故、この部分の読解には、多くの時間と労力を費やしたが、成果も少なくなかった。

まず、冒頭部で「ニクシェーパ」と呼ばれるジャイナ教独特の分析方法がとられていることが明らかになった。またその方法が一般的に知られている四種ではなく、それ以上の細かい分類によっていることも判明した。その過程で白衣派文献である「マラヤギリ注」が空衣派の学匠アカランカの意見によっていることが今回の研究で発見され、両派の交渉（依存関係）がマラヤギリの時代まで続いていたことが裏付けられた。

さらに後続する部分との比較を通して、「ピーティカー」部分では多くの基本的用語が用いられ、全体の導入部としてよりも、まとめとしての要素が大きいことも判明した。

「ピーティカー」以降の部分では戒律違反者に対して実際にどのような処罰（滅罪行）を適用するのかが記述されているが、その内容は大きく二つに分けられる。一つ目は適用する際の計算方法である。採用する暦法に従い、月日をどのように算出するかが数式を用いて細かく規定してある。これはジャイナ教徒、広くはインド人の「計算嗜好」の一端である。二つ目は適用する際の柔軟な態度である。例えば、異教徒が多い地域などで、肉食を強要された場合、なるべく拒絶することが求められるが、不可避であれば受け入れて好く、処罰の対象とはならないとの記述が「マラヤギリ注」に見られる。

また、二註釈では多くの説話が使用されている。その内、「マラヤギリ注」におけるものはヒンディー語訳や英訳がある。本研究でもこれらの説話に多くの関心を持ち、検討した。その結果、喩例として用いられる説話に幾つかの種類があることが判明した。

##### チュールニ本文の校訂編集

2013年のインド現地調査において、チュールニの写本5種をインド国グジャラート州の

写本庫で入手することが出来た。これを「マラヤギリ注」の読解と平行しながら、校訂し本文を確定する作業を2014年4月から開始した。

その結果、「マラヤギリ注」が完全に独立したものではなく、基本的にチュールニを踏襲していることが判明した。特に説話を引用する個所では殆ど同じであることから、両者の関係が、ある程度は明らかになった。また、チュールニはプラークリット註の全てを対象としているのではなく、幾つかの偈には「これは簡単である」とするだけであることも判明し、「マラヤギリ注」との態度が違うことも理解される。

##### (2) 成果の国内外における位置づけとインパクト

以上のような成果の一部を学会発表や学術雑誌での論文掲載などの方法で国内外において公表してきた。例えば2013年2月にはネパール国ルンビニーで催された「仏教およびジャイナ教研究集会(The Buddhist and Jaina Studies Conference)」では藤永が「ピーティカー」部分についての発表を行った。その反響としてロンドン大学ジャイナ教研究センターの機関誌「ジャイナ教ニュースレター」第8号(2013年)に「今後のジャイナ教に重要な点を指摘した」との記事が掲載された。

また2014年10月には藤本が大谷大学で催された「ジャイナ教研究会」第29回研究会で『経』第2章を中心にした発表を行い、参加した仏教研究者から質問や提案を受けた。

##### (3) 今後の展望

##### 『経』および註釈の読解継続

本研究はムニチャンドラ本の完全読解を目指したが、プラークリット註全4133偈の内、約25%にあたる1000偈ほどに終わった。これを完遂することが、これからの最大課題であり、これによってジャイナ教戒律の実際適用が明らかになると思われる。

##### チュールニの研究

また未刊行の註釈チュールニの写本を入手し、校訂編集の作業を行ったが、全編を読解するには及ばなかった。これも今後の課題として取り組みたい。

##### 索引等の作製

読解作業の結果、本文の確定を行い重要用語の訳語を検討したが、索引や英文への翻訳が残された。今後はジャイナ教ヴィナヤの研究に資する様々な索引を作成するつもりである。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 4 件)

河崎 豊、Vyavahāra 註釈文献群が記す

討論術、中央学術研究所紀要、査読有、  
43号、2014、131-144  
FUJINGA Shin, KAWASAKI Yutaka,  
YAGI Ayako, HOTTA Kazuyoshi,  
*Vyavahārasūtra Bhāṣya Pīṭhikā*, LIRI  
Seminar Proceedings Series vol. 6. 査読有、  
2014、219-227

〔学会発表〕(計 3 件)

藤本 有美、僧団追放を受けた僧の入門  
について、ジャイナ教研究会 第 29 回研  
究会、2014 年 10 月 25 日、京都府京都市  
FUJINAGA Shin, *Drṣṭāntas and Udāharaṇas in*  
*Vyavahārasūtra Bhāṣya and Vivṛtti*, Conference  
on Udāharaṇa-s, Drṣṭānta-s, and Nyāya-s in Texts  
and Contexts, 2014 年 2 月 27 日、インド国ア  
ーメダバード

FUJINAGA Shin, *Vyavahārasūtra Bhāṣya*  
*Pīṭhikā*, A Preliminary Note for Jaina Vinaya,  
Buddhist and Jaina Studies, 2013 年 2 月 13 日、  
ネパール国ルンビニー

〔図書〕(計 0 件)

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

藤永 伸 (FUJINAGA Shin)

都城工業高等専門学校、一般科目文科、  
教授

研究者番号：70209071

### (2) 研究分担者

八木 綾子 (YAGI Ayako)

京都大学、文学研究科、研究員

研究者番号：20612021

堀田 和義 (HOTTA Kazuyoshi)

大谷大学、文学部、助教

研究者番号：70548687

### (3) 連携研究者

河崎 豊 (KAWASAKI Yutaka)

大谷大学、文学部、特任研究員

研究者番号：70362639